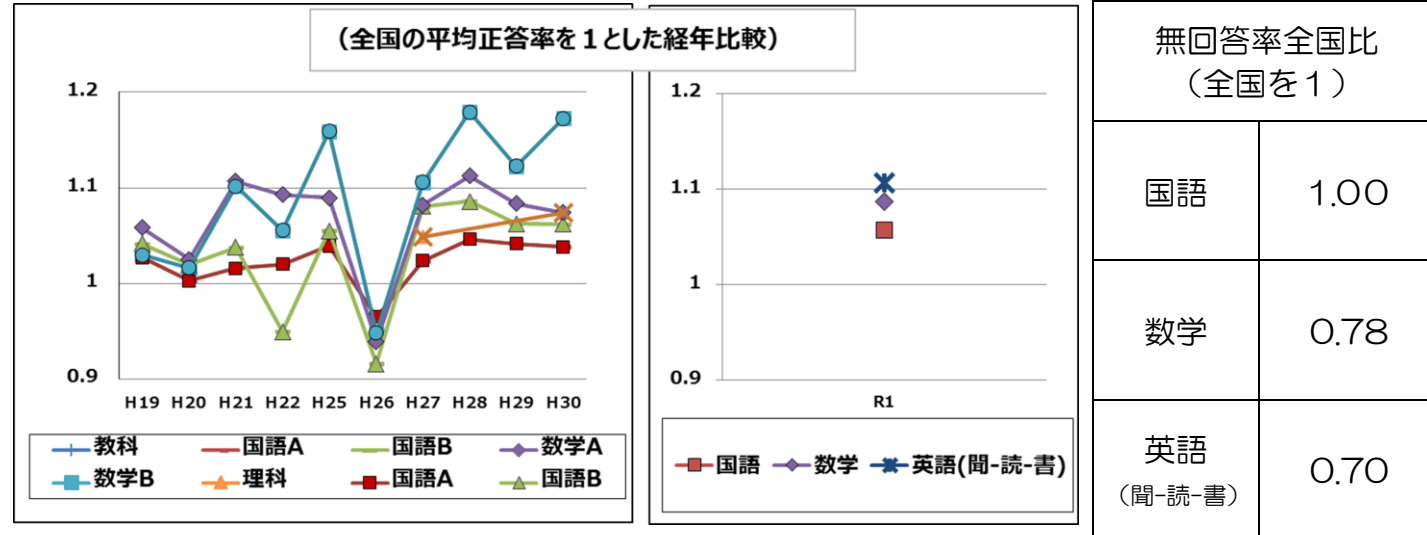


平成 31 年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の結果について

令和元年 9 月 24 日
枚方市立第四中学校

文部科学省が今年 4 月に実施した、平成 31 年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の結果について、全国を基準とした経年推移等によって、本校の学力や学習の状況を保護者の皆様にお知らせします。結果によると、生徒の生活習慣と学力には相関関係があることから、引き続き、保護者の皆様にもご協力をお願いいたします。

【全体概要】



学力調査結果の中から、本校と全国の経年比較（対全国比）をお知らせします。
（※今年度より、A・B問題が一体化されましたので、グラフを分けています。）



学力調査の結果

<学力調査結果の概要>

○国語について

→例年に比べ、記述問題が多くなったが無回答率が非常に低く、前向きに問題に取り組む姿勢が見受けられた。文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもち、記述する問題等にもしっかりと答えることができていた。

○数学について

→全体的によくできていた。どの問題も無回答率が低いことから、積極的に問題に挑もうとする姿勢が見られた。なかでも計算問題、図形の合同を証明する問題、式の説明などといった普段から扱うような問題については正答率が高かったが、情報を処理する問題を苦手としているところが見られた。

○英語について

→全体的によくできていた。しかし、自分の考えや状況に応じた英文を書く範囲の正答率と無回答率が他の問いに比べて高かった。ただ、自分なりに考えた答えを記述しているところを見ると、なんとか自分の思いを伝えようとする意思が見えた。

※本調査は、平成 19 年度から実施されています。

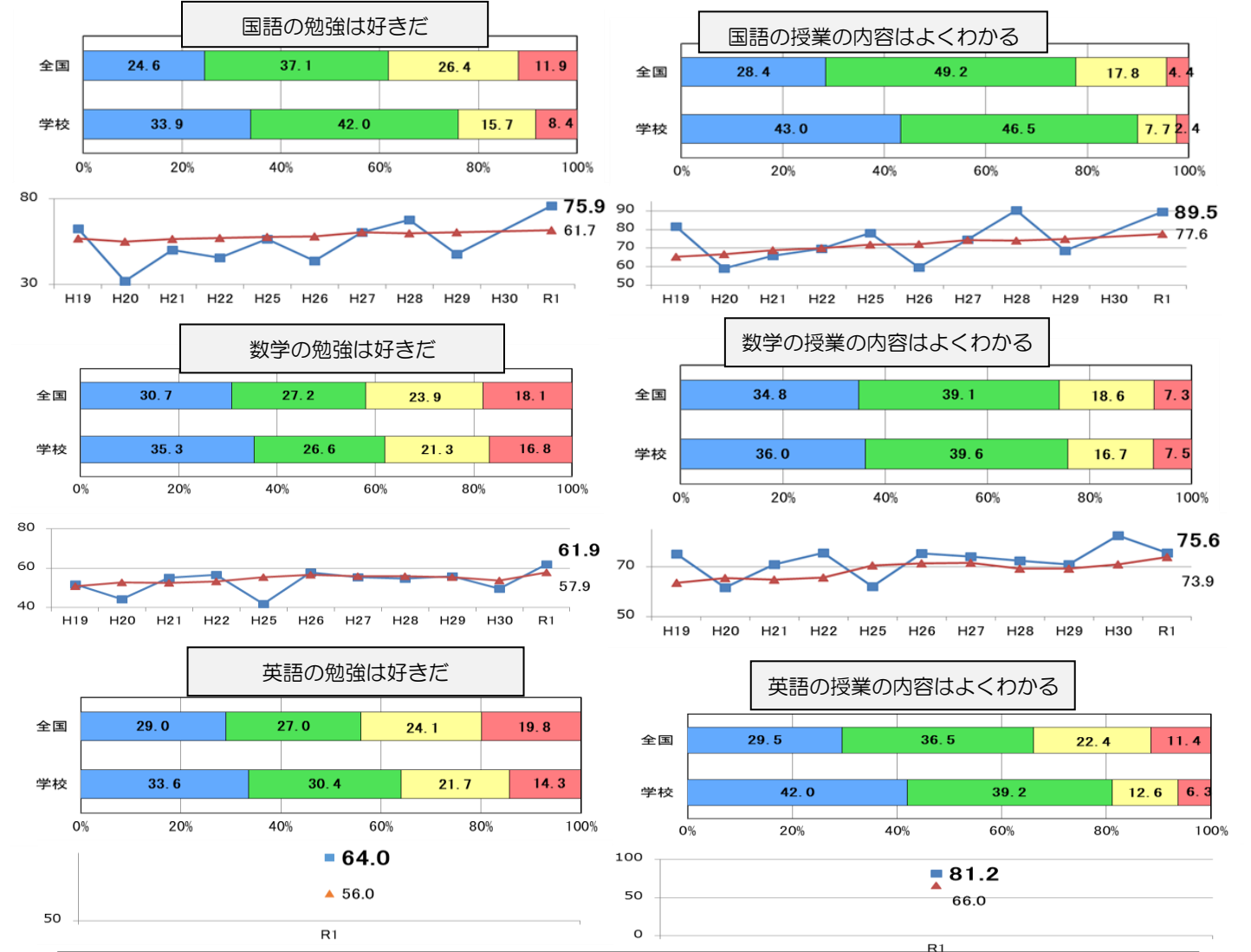
※平成 23 年度は中止（東日本大震災）、平成 24 年度は一部の学校を対象にした抽出調査のため、掲載していません。

※英語の「話すこと」調査は、全国で実施していない自治体がある等、【参考値】として公表されることから、対全国比は掲載していません。

質問紙調査の結果

※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「あてはまらない」を示しています。
※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。
※無回答があるため、帯グラフの合計数値は 100 にならない場合もあります。

教科質問紙調査結果の中から、主な項目について、本校と全国の経年比較をお知らせします。



<質問紙調査結果の概要>その他の質問項目では、英語「授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」全国比+4P、「原稿などの準備をすることなく、（即興で）自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていた」全国比+12P、国語では「授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしている」全国比+8P・一昨年度比+29P と高い肯定的回答率となりました。また「授業で自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思う」では全国比+21P、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができると思う」+8P と非常に高い肯定的回答率結果となりました。

【まとめ】

実施教科の質問紙調査の結果から分析すると、国語と数学については「教科の勉強は好きだ」の肯定的回答が昨年度（一昨年度）より大きく上昇し全国を越える結果となりました。また、今年度はじめて実施された英語についても全国を越える結果となりました。各教科において興味・関心を持ち知的好奇心やワクワク感を持つような授業づくりに向け工夫した成果と考えています。「教科の授業の内容はよくわかる」では、3教科とも肯定的回答が全国を越える結果となっていますが、数学においては、強否定（一番右）の生徒が全国並みとなりました。数学が苦手な生徒への継続的な支援が必要と考えています。

※次ページ以降に、「各教科に関する調査」「質問紙調査」における詳細な結果について公表しております。

【詳細について】

教科に関する調査

<国語>

成果や課題があった設問

文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつ。

【成果】

4	外国語の辞書に載っている言葉を示すことで、読者が海外と日本の言葉の意味の違いに気付くことができるようにしている。
3	「海外に広がる弁当の魅力」の記事の要約を示すことで、読者が時間をかけずに新聞を読むことができるようにしている。
2	このシリーズで取り上げる内容を示すことで、読者が今後の掲載の見通しをもつことができるようにしている。
1	日本の文化の例を複数示すことで、読者が様々な国の文化と比較しながらこの紙面を読むことができるようにしている。

① 「シリーズ再発見！日本の文化」にある、「日本の文化の中には、海外でも広く知られているものがあります。…第一回は、弁当です。」という文章（□で囲まれた部分）について説明したものと最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

	正答率	無解答率
本校	74.5	0.0
全国	63.9	0.1

① 問題用紙Ⅱの【全国中学生新聞】を読んで、あとの問いに答えなさい。

(考察) 急速に情報化が進展する社会の中では、目的や意図に応じて様々な情報をより主体的に活用する力を身につける必要がある。そのために、新聞や雑誌など様々な媒体に触れたり、文章の種類による叙述の特徴を捉えながら読んだりすることが大切である。なかなか授業の中で、このような媒体をもとにして力をつける機会を設けることが難しい現状だが、引き続き、教科書を基本にして力をのばしていきたいと考える。

【課題】

意見文の下書きに書き加える言葉として適切なものを選択する。

4	いくら地域の店が便利でも、
3	いくらインターネットが便利でも、
2	たとえ我が家が地域の店を利用しなくても、
1	たとえ我が家がインターネットを利用しても、

③ 青木さんは、読み手にとってより分かりやすい文章にするために【意見文の下書き】の①のところに言葉を入れて書き直すことにしました。書き加える言葉として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

	正答率	無解答率
本校	86.3	1.1
全国	87.4	0.4

(考察) 全体的に、全国を上回る正答率である中、当該の設問のみ全国を下回る正答率であった。意見文を書く際には、自分の考えの根拠を明確にして書く必要がある。また、記述にあたっては接続語の使用や段落構成の工夫などによって、読み手に対してどの部分が根拠であるかが明確になるような表現上の工夫をしたり、読み手に分かりやすい説明を加えたりすることが重要である。少しでも書く機会を多く設け、書いたものをお互いに読み比べることで、より分かりやすい文章表現力を身につけていきたい。

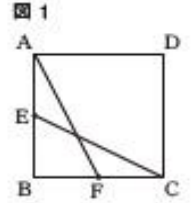
<数学>

成果や課題があった設問

【成果】

三角形の合同の証明についての問題

7 右の図1のように、正方形ABCDの辺ABの中点をE、辺BCの中点をFとします。真由さんは、線分AFと線分CEについて、次のことを予想しました。



予想1
正方形ABCDの辺ABの中点をE、辺BCの中点をFとすると、 $AF = CE$ になる。

次の(1)から(3)までの各問いに答えなさい。

(1) 予想1が成り立つことは、次のように証明することができます。

証明
△ABFと△CBEにおいて、
正方形の4つの辺はすべて等しいから、
 $AB = CB$ ……①
点E、Fはそれぞれ辺AB、BCの中点だから、①より、
 $BF = BE$ ……②
共通な角だから、
 $\angle ABF = \angle CBE$ ……③

【課題】

冷蔵庫についての情報を読み取る問題

6 健太さんの家では、冷蔵庫の購入を検討しています。健太さんは、冷蔵庫A、冷蔵庫B、冷蔵庫Cについて調べたことを、次のような表にまとめました。

健太さんが作った表

	冷蔵庫A	冷蔵庫B	冷蔵庫C
容量	400 L	500 L	500 L
本体価格	80000円	100000円	150000円
1年間あたりの電気代	15000円	11000円	6500円

健太さんは、冷蔵庫A、冷蔵庫B、冷蔵庫Cについて、使用年数に応じた総費用を考えることにしました。そこで、それぞれの冷蔵庫において、1年間あたりの電気代は常に一定であるとし、次の式で総費用を求めることにしました。

(総費用) = (本体価格) + (1年間あたりの電気代) × (使用年数)

	正答率	無解答率
本校	81.4	3.9
全国	75.8	5.2

(考察) 普段の授業で扱うような問題については正答率が高かった。左のような図形の合同を証明する問題についても、証明の内容を読みとり必要な合同条件を選択することができた。このように問題文を読みとって必要な知識を適切に解答するような知識理解の観点や、様々な計算等の技能の観点に関する問題の正答率が高いことがわかった。引き続き様々な観点の問題に取り組んでいけるよう指導していきたい。

	正答率	無解答率
本校	41.6	10.4
全国	34.7	11.6

(考察) 今まで見たことのないような情報を処理する問題を苦手としているところが見られた。情報をまとめた式が一体何についての式なのか、グラフが何を表しているグラフなのか、情報をまとめた平均値などはどこで使われるのが適切なのかなど、情報を適切に活用する問題の正答率が低く、無解答率もわずかながら高いことが分かった。数学で培った能力を活用できるように取り組む必要がある。

【成果】

一般動詞の1人称複数過去時制の肯定文を性格に書くことができる。

(2) 次の①, ②について, 例を参考にしながら, 必要があれば () 内の語を適切な形に変えたり, 不足している語を補ったりなどして, それぞれ会話が成り立つように英語を完成させなさい。

(例) <放課後に図書室で>

A : Can you help me now?

B : Sorry. I (do) my homework now.

[答え] am doing

① <朝の通学路で>

A : I watched a baseball game yesterday. It was so exciting.

B : Oh! (like) baseball?

A : Of course. I love playing and watching baseball.

② <休み明けに教室で>

A : Was your vacation good?

B : Yes. My family and I went to Australia.

(stay) there for two weeks.

A : Wow! Wonderful

聞いて把握した内容について、適切に感じる

(放送問題) 英語の授業で, 来日予定の留学生からの音声メッセージを聞くところです。メッセージの内容を踏まえて, あなたのアドバイスを英語で簡潔に書きなさい。 ※下の枠は, 下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

(以下は放送の原稿です)

英語の授業で, 来日予定の留学生からの音声メッセージを聞くところです。メッセージの内容を踏まえて, あなたのアドバイスを英語で簡潔に書きなさい。解答時間は1分30秒です。それでは始めます。

Hello. I'm Nick. I'm looking forward to meeting you. I'm going to stay in your country for two weeks. I hear that there are a lot of club activities in Japanese schools. I want to try some! Which club activities can I try? Can you give me some advice? I'm waiting for your answer. Thank you.

	正答率	無解答率
本校	42.7	10.0
全国	28.9	12.6

(考察)

全国に比べ正答率が高かった。文脈に合うよう () 内の単語を書き換える問題。問題集を家庭学習として取り組んでいる成果ではないか。また、教科書を基本とする英文に慣れ親しむことで、会話の流れや状況をつかむ力が身についている。どの文法を使えば良いかの選択をするには、英文の内容をイメージで想像することで使い分けられる力が大切である。教科書の挿絵や絵と単語を結びつけて言語を習得する方法を授業で取り入れていきたい。

	正答率	無解答率
本校	8.6	32.6
全国	7.6	42.3

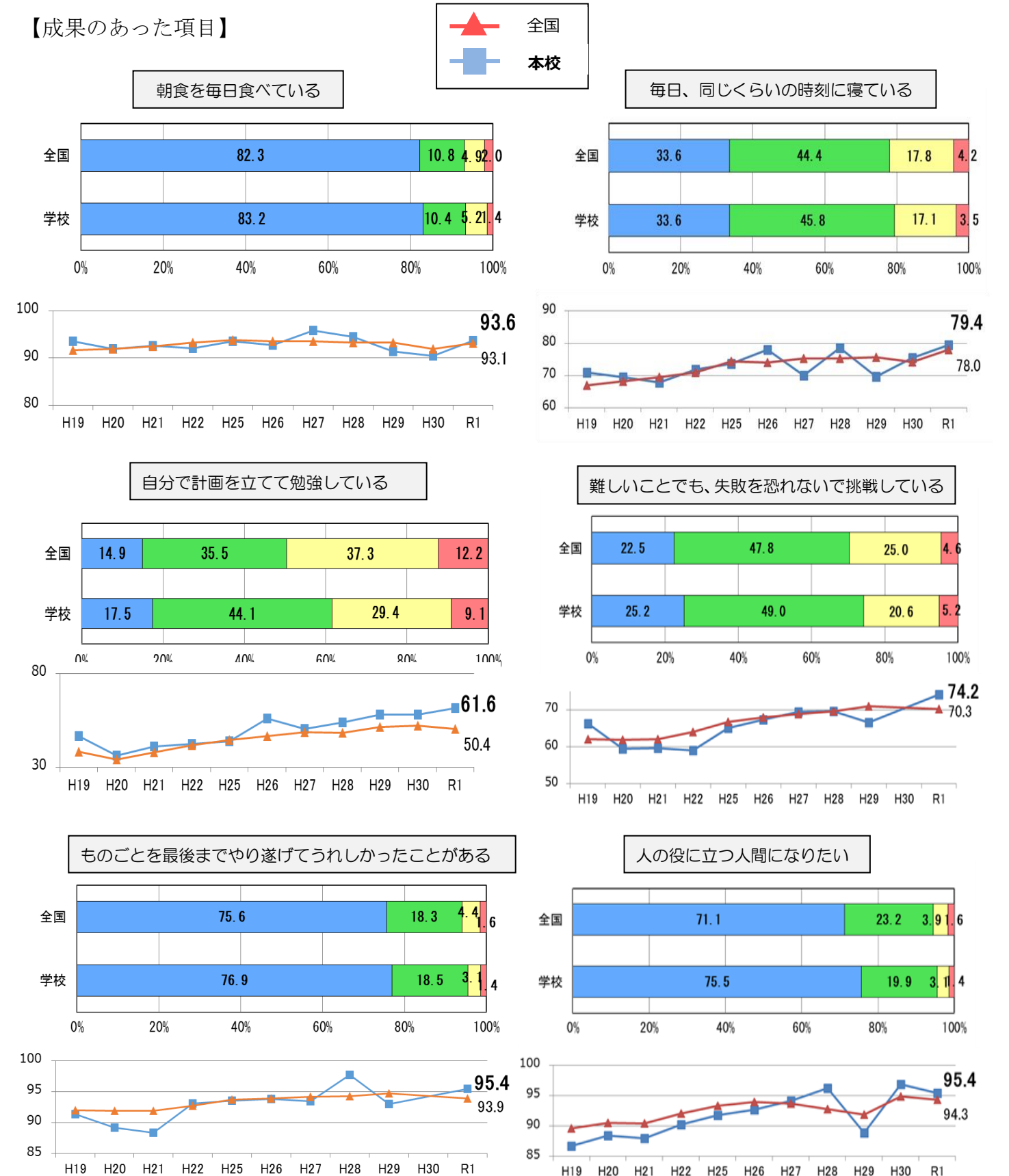
(考察)

無解答率が目立った問題だった。アドバイスを伝えようとはしているものの、「クラブへ行くべき」や「一緒にクラブへ参加しよう」といった解答が多かった。前半の英文が聞き取れなくても、I want to try some! Which club activities can I try? の部分を聞き取ってアドバイスすることができる。また、can I try? と質問されているので You can ~で始めて解答するといった、会話の基本表現を身につけていきたい。

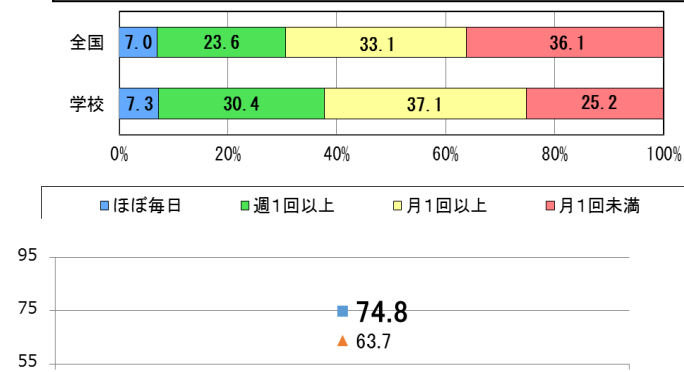
質問紙に関する調査

※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「あてはまらない」を示しています。
※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。
※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合もあります。

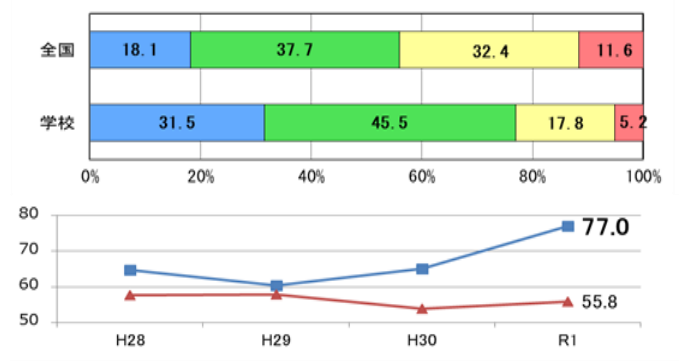
【成果のあった項目】



1,2年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか

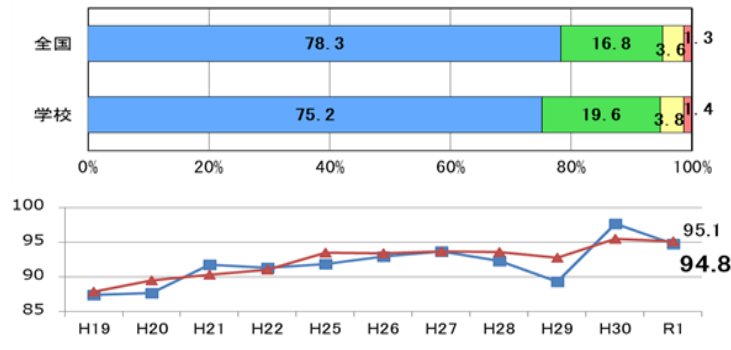


授業で自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫

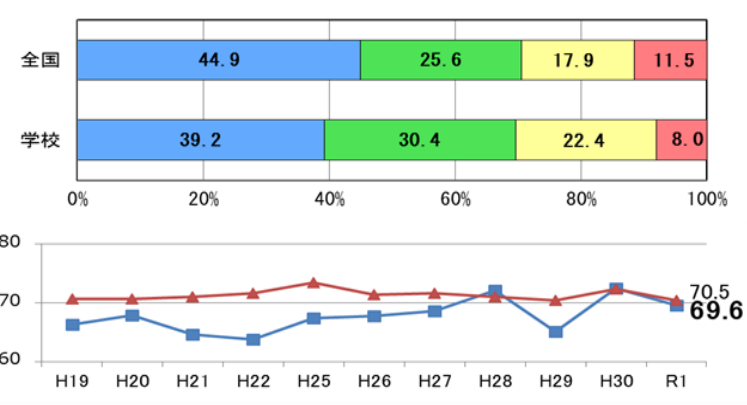


【全国並みの項目】

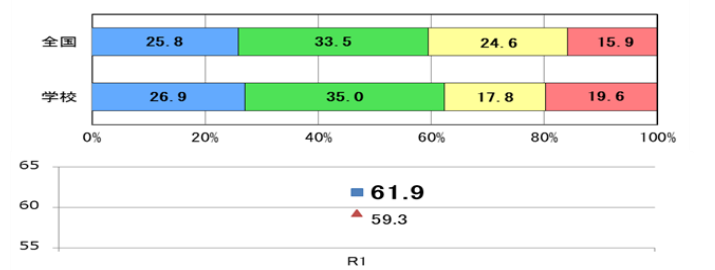
「いじめ」は、どんな理由があってもいけないことだと思う



将来の夢や目標を持っている

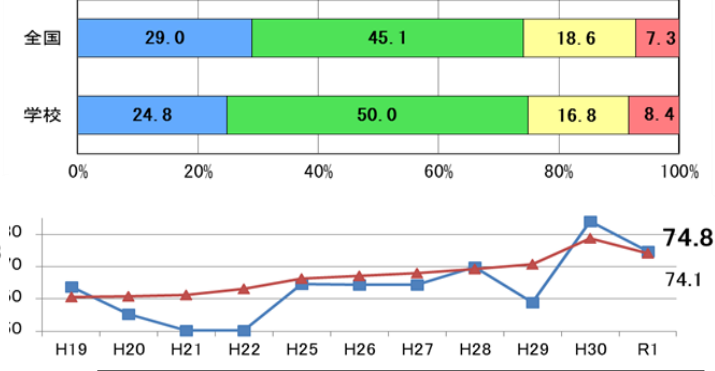


日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思う

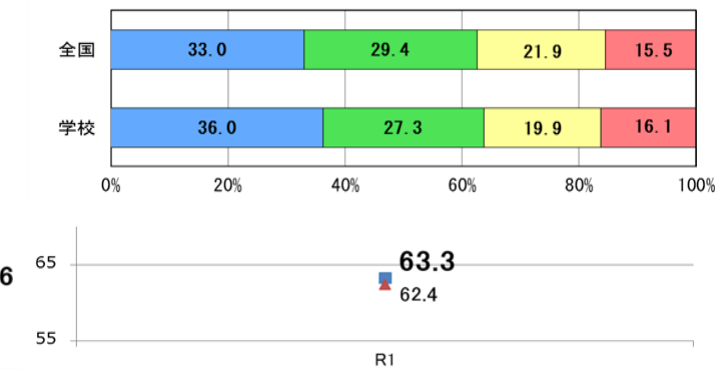


(考察)「朝食を食べている」「毎日同じくらいの時刻に寝ている」の肯定的回答率が高く、各家庭のご協力により規則正しい生活習慣により朝の遅刻も減少しています。「自分で計画を立てて勉強している」の肯定的回答率では過去最高となり、家庭学習も定着している生徒が増加してきました。「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦している」「ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある」の肯定的回答率が高くチャレンジする力や向上心が向上していることがわかります。また、粘り強さもあり達成感を感じる体験をしている生徒も増えました。表現力も顕著に高くなり、「主体的・対話的で深い学び」の実現と、引き続きキャリア教育の充実を図っていきます。「生活習慣」と「学力」には相関関係があることから保護者の皆様による「生活習慣・学習習慣」の確立に向けて、今後ともご協力をお願いします。

授業時間以外、普段(月～金)1日の勉強時間(1時間以上)

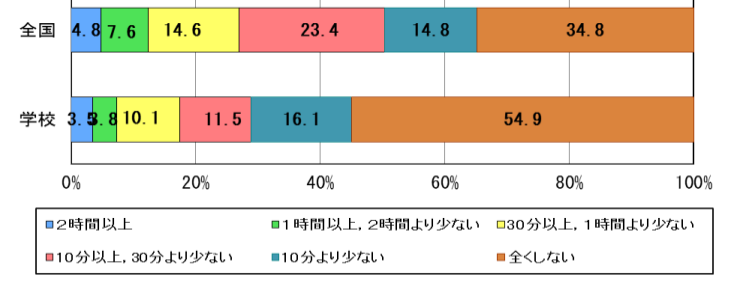


外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思う

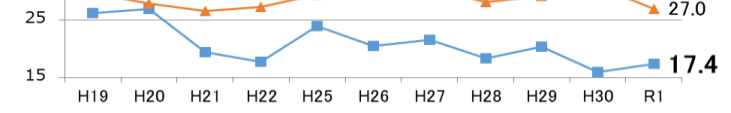


【課題が残った項目】

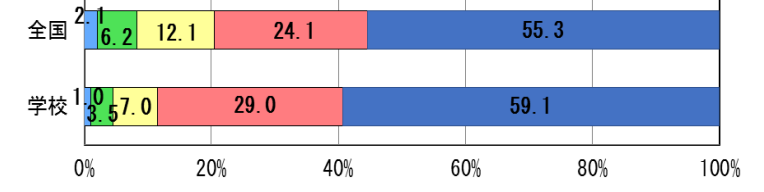
学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか



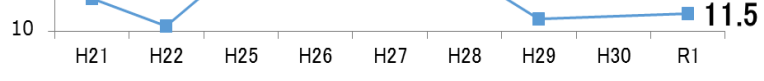
(1日30分以上)



昼休みや放課後、学校が休みの日に、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか



(月1回以上)



(考察) 課題が残った項目は、「学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか」「昼休みや放課後、学校が休みの日に、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか」の質問に対し、「まったくしない」の割合が今年度も全国を上回る結果となりました。図書委員会からの啓発活動やビブリオバトルの取組み、学校図書館の利用等を通して読書活動の推進が必要です。

分析結果を踏まえて今年度中に取り組みでいくこと

- (1) 授業改善について
 - 授業改善に関する項目では、「教科の勉強は好きだ」の肯定的回答率が大幅に上昇しました。昨年度は「授業の内容はよくわかる」の肯定的回答率は高いが、「教科の勉強は好きだ」の肯定的回答率が低く全国を下回っていました。今年度は教科会の充実と HIRAKATA 授業スタンダード及び四中メソッドの定着、また各教科において実生活との関連付けや教科横断的な学習をはじめ、「なぜそうなるのか」といったことなども追及し生徒に説明や発表させるなどの授業づくりを進めた成果であると考えます。今後もタブレットの効果的な活用を研究も含め、生徒たちが示された課題や自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組む力の育成に努め、引き続き「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け授業改善を推進していきます。
- (2) 学習規律について
 - 学習規律についても教科会の充実と HIRAKATA 授業スタンダード及び四中メソッドが定着した成果だと考えています。加えて、四中校区における小中一貫による教科部会での交流や研究の成果がでています。今後も「めざすハタチ像」の実現に向け義務教育9年間を見通した組織的な取組をさらに推進していきます。
- (3) 家庭学習について
 - 家庭学習に関する項目では、自ら計画的に学習できている生徒が増加している一方、家庭学習をほとんどしていない生徒の割合が全国よりも高いことが課題として考えられます。今後も教科書を使っでの学習を基本に、予習プリントや学習コンテンツを活用した反転学習の推進を図るとともに、タブレット等を活用した一人ひとりに対する学習支援の充実を研究していきます。
- (4) その他
 - 本校が進めている「キャリア教育」による内発的動機付につながる結果であった。同学年だけではなく、異学年とのつながりを大切にした教育活動と課題解決型を中心とした協働活動を今後も進めていきます。
 - 教員研修では、授業改善に対する教員の意識向上と、肯定的評価活動(よいとこみつけ)、協働的な学び、言語活動の充実、情報活用能力(情報モラル教育含む)の育成を図っていきます。